

## 【ICT教育の目指すもの】

ICTとは「Information and Communication Technology」、つまり“情報通信技術”を意味します。ITという言葉もよくつかわれますが、ITは情報技術そのものを指します。一方、ICTは真ん中に「Communication（通信、伝達）」という言葉が入っており、ITよりもコミュニケーションの重要性が強調されています。単なる情報処理にとどまらず、ネットワークを利用した情報や知識のやり取り、人と人とのつながりに重きが置かれており、それを教育現場で活用するICT教育がこれからの授業の中心になります。生徒一人一人にタブレットが配付され、またすべての教室に黒板投影用プロジェクタが設置されたことについては、前回お知らせしました。これらの機器が本校でも盛んに使用され始めています。

数年前に始まった「GIGAスクール構想」というICT教育への流れでは、「はたして教員が情報機器を使いこなせるのか」「教員が使い方をマスターすること自体が負担となるのではないか」といった懸念が実際にありました。しかし本校では、それをまったく問題としていません。なぜならこの情報機器を使いこなすのは生徒たちであり、ICT教育の目的を「生徒の力の育成」に位置付けて取り組んでいるからです。

多くの生徒たちは、すでにタブレット等を日常的に使いこなしています。しかしそれだけでは、コミュニケーションツールとしてのICT活用が実現できている訳ではありません。一つのテーマについて議論をすることや、他人の提案について根拠を持った意見を述べるなどの活動が日常的に行われることが必要です。「あわら考幸学」は、こういった学び方を醸成するために掲げたテーマです。

2月15日には、本校連携クラス3年1組が取り組んできた課題研究の校内発表会を予定しています。ここでは市長をはじめ市役所各課の代表や地域でお世話になった方々にも参加していただき、生徒たちにご意見をいただく予定をしています。もちろん1・2年生との意見交流会もあります。

是非ご来校いただき、本校がICT教育で何を目指しているかを感じ取っていただけたらと思います。

